

# 平成30年度 全国学力・学習状況調査結果の概要

東員町教育委員会

## 【調査の目的】

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 【調査の概要】

○実施校数 ○実施児童生徒数

小学校（6校）・6年生：227人

中学校（2校）・3年生：231人

○学力に関する調査 ○学習や生活の状況・学校の取組に関する調査

小学校：国語A・国語B・算数A・算数B・理科 児童アンケート

中学校：国語A・国語B・数学A・数学B・理科 生徒アンケート

※Aは、主として「知識」に関する問題、Bは、主として「活用」に関する問題

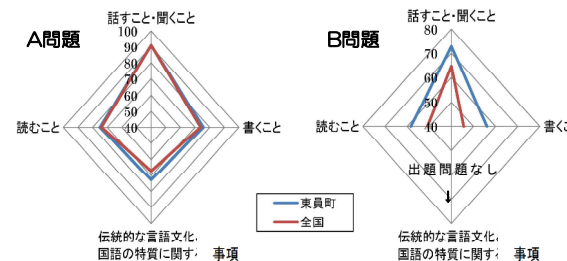
## 【調査結果の取扱い】

本調査により測定できるのは学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのため、序列化や過度な競争を目的とした取扱いにつながらないよう各教科別に各領域の正答率をレーダーチャートで記載しています。

調査結果については、本調査の目的を達成するため、自らの教育及び教育施策の改善、各児童生徒の全般的な学習状況の改善等につなげることが重要と考えます。

国語

## ○小学校



### 【全体的な傾向と課題について】

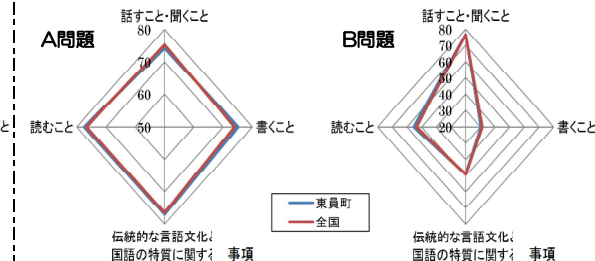
A問題では、昨年度に比べて「話すこと・聞くこと」領域で正答率の向上が見られたが、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」において、主語と述語の関係などに注意して書く力に課題が見られた。

B問題では、出題された3つの領域において全国平均を大きく上まわっている。しかし、目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして書く問題の正答率は、22.9%と低く課題といえる。

### ★指導のポイント★

- 具体的な叙述を基に、目的や意図を明確に捉え、自分の考えを整理して書く学習

## ○中学校



### 【全体的な傾向と課題について】

昨年度に続き、A問題では、4領域ともに基礎基本的な力が身につけている。しかし、問題別正答率で見ると、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」領域（語句や慣用語）で全国より低い部分が見られる。

B問題では、「書くこと」の領域で、目的に応じて文章を読み、内容を整理して書いたり、相手に伝わるように、あらすじを捉えて書いたりする力に課題が見られた。

### ★指導のポイント★

- 語句の意味を理解し、文脈の中で正しく使う学習
- 文章の関係性（構成や展開）を意識した学習

## 学力調査の検証にかかる東員町の教育努力目標

### 【確かな学力】

○小学校

- 学んだこと（基礎基本）を生かしながら、仲間とともに新たな課題を乗り越える力を育みます。
- 対話力、活用力を生かしながら、課題を克服できる力を育みます。

○中学校

- 目標に向かって、計画的・継続的に学習できる力を育みます。

### 【豊かな心】

○小学校

- 仲間とともに学び合うことに喜び感じられる心を育みます。
- 困っている子に気づき、相手の立場に立ち、考えられる心を育みます。

○中学校

- 自分の将来や生き方について考えられる力を育みます。
- 社会の発展に貢献しようとする心や力を育みます。

### 【健やかな体】

○小学校

- 規則正しい生活習慣と、進んで運動したり外遊びをしたりする習慣を身につけます。

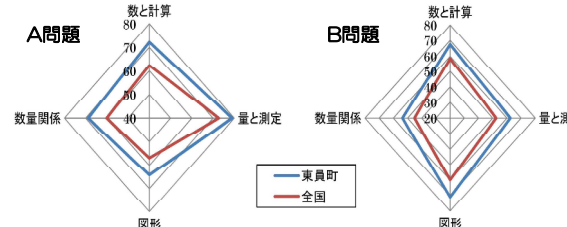
○中学校

- 規則正しい生活習慣を確立し、体力をつけようとする力を育みます。

（東員町16年一貫教育プランより）

算数・数学

## ○小学校



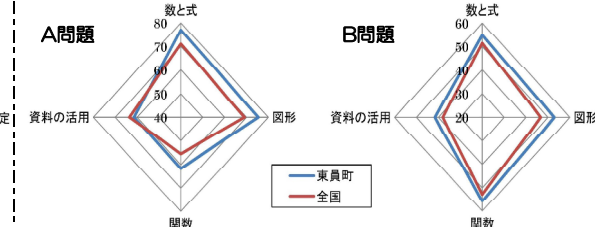
### 【全体的な傾向と課題について】

A・B問題ともに全国を大きく上回り、基礎・基本と応用・活用との力がバランスよく身につけている。問題別に見ると、「混み具合を比べること」「円周率を求めること」「グラフから読み取ること」で正答率がやや低く課題といえる。

### ★指導のポイント★

- 数量や図形に関して、立式や数値計算だけでなく、量的な感覚を視覚化するなど、理解を深める学習
- メモや表などの情報とグラフを関連づけ、総数や変化に着目しながら、そこから読み取った情報や解釈した事を、自分の考えとして文章で記述する学習

## ○中学校



### 【全体的な傾向と課題について】

A問題では、「資料の活用」の領域で全国よりも正答率が低い。問題別に見ると、「資料から中央値を求めること」「複数回の試行から確率を求めること」に課題がある。

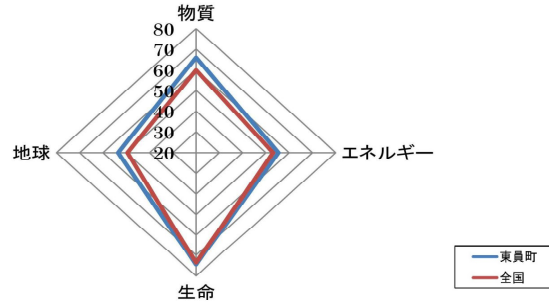
B問題では、すべての領域で正答率が全国を上回っているが、「数学的な表現を用いて数式を説明すること」「与えられた情報から、必要な情報を選択し、的確に処理すること」において正答率が低く、論理的な思考を要する表現力に課題がみられる。

### ★指導のポイント★

- 資料の読み取りや試行の結果を、数値や文章で表す学習
- 数学的な表現を用いて、問題解決の方法を説明する学習

レーダーチャート図の見方：各教科で学習指導要領に示されている領域の正答率をグラフ化したものです。それぞれの領域の正答率が高いほど、グラフの形はバランス良く大きくなる傾向にあります。

○小学校



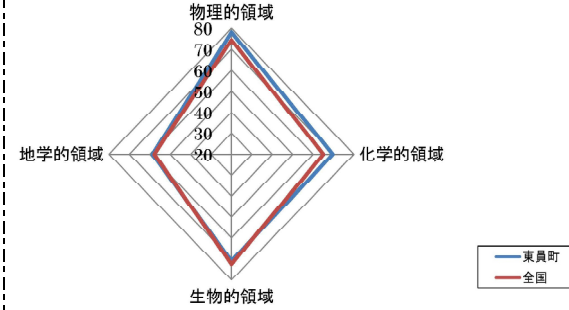
【全体的な傾向と課題について】

4領域共に全国を上回っているが、「エネルギー」「地球」の2領域の正答率の低さから課題が見られる。「地球」では、大雨によって流れる水の量が増えた時の大地の削られ方に関する記述問題の正答率が低い。実験結果から分析・考察したことを、論理的に説明する力（書く力）の育成が必要である。

★指導のポイント★

- ・実験や観察を通じて、体験的に理解を深めること
- ・事実確認にとどまらず、実験等の失敗から「なぜ」「どうすれば」といった思考を高めながら、知識を深められる学習

○中学校



【全体的な傾向と課題について】

全体的に正答率が高く、全国をやや上回っているが、小学校と同様に「地学的領域」の領域に課題が見られる。「地学的領域」では、湿度の変化を化学的に探究する場面で、蒸散と温度に関する記述問題の正答率が低い。湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘するために、問題解決の知識・技能を活用できる力の育成が必要である。

★指導のポイント★

- ・基本的な知識をもとに、予想や仮説と比較しながら課題追究を行い、科学的根拠にもとづいて、考えをより論理的に表現する（説明や記述）学習